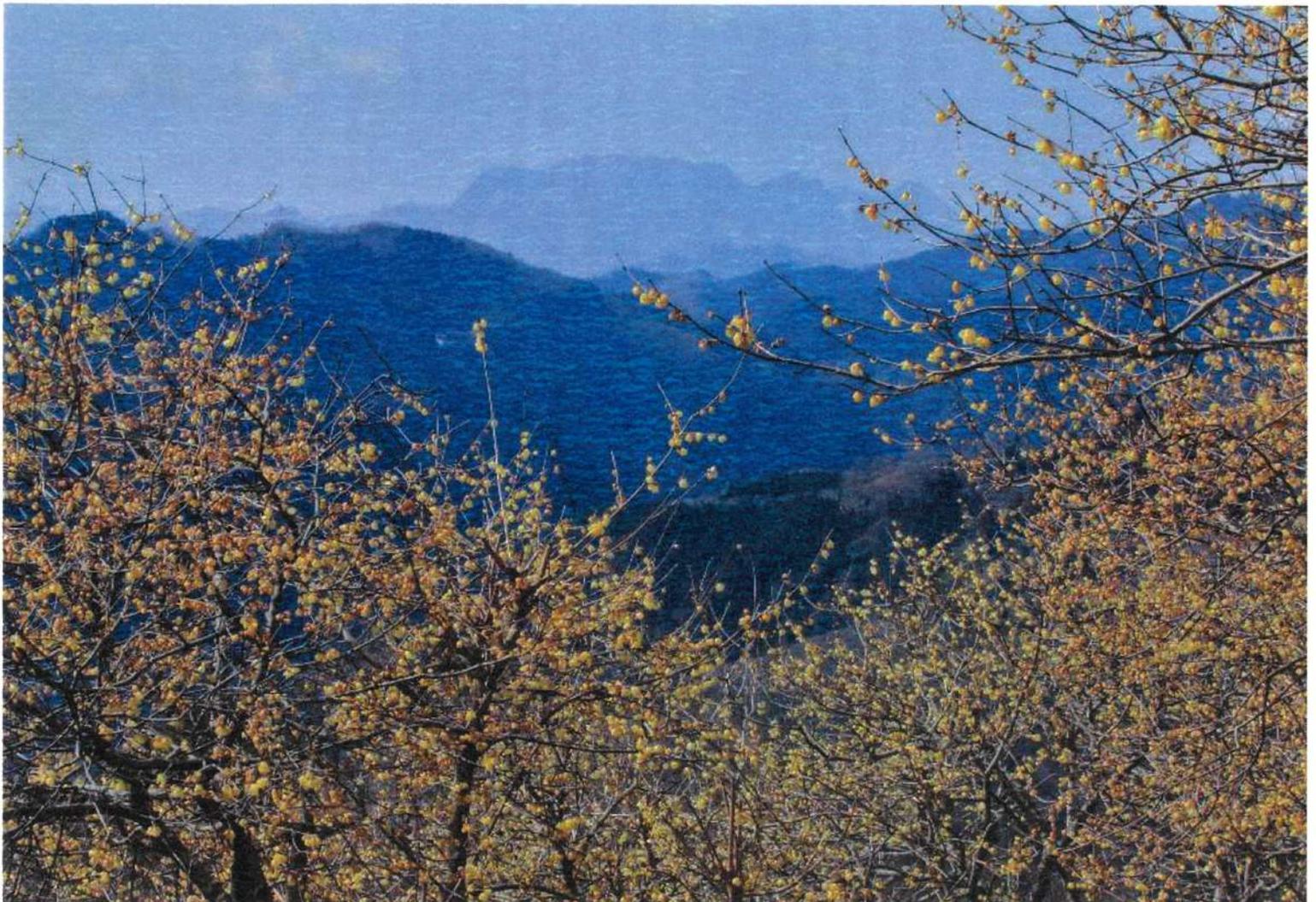


奥武蔵

463

奥武蔵研究会

2026年(令和8年)1月



宝登山のロウバイ

撮影：清水卯平氏

奥武蔵は心のオアシス

加藤 恒彦

研究会の皆様、明けまして御目出度うございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。昨年は我が国に女性初の宰相が誕生した。しかし、国内外を取り巻く世界情勢は一段と厳しいものとなっている。

ロシア軍によるウクライナ侵攻が始まった2022年2月27日、その日、私は横瀬二子山を登山中で、そのニュースは新聞の朝刊で知っていた。暗澹たる気持ちを抱きつつヨーガイ入から這い上り、雪に覆われた稜線上に辿り着いた。無窮の蒼空の下、横一線に走る上武国境上の美しい山波も何故か虚しかった。あれから間もなく4年になる。ウクライナ戦争は未だ終わりが見えていない。翻ってインバウンドで訪日外国人は空前の数を記録した。外国人ハイカー集団が過疎の山上集落迄バスをチャーターして乗りつけ、奥武蔵、秩父、奥多摩の山々に登り、徘徊漫歩しているのも現実である。日本の山の何処が良いのかと、顔振峠で出会った若いイギリス人のハイカーに尋ねた処、日本の森林は多種多様で世界一美しいと褒めてくれた。それにしても今夏の異常高温は長く続き、地球燃焼化の恐怖さえ感じたほどだ。アマゾン川流域は大旱魃で乾燥化し、コーヒータ園は壊滅、スイスアルプスの氷河も消滅し、あまつさえ地球の屋根ヒマラヤの万年雪も急速に溶け始めている。ヒマラヤ山系の気象条件をモロに被る我国も今夏は早魃で備蓄米放出の米騒動は耳目に新しい。凶作は山にも及び、ブナ、トチの実が実らず飢えた熊が人里に降り、人に殺傷を与え始めた。ライフル銃を持った自衛隊や警官まで出動する騒ぎだ。これがまあ「平和ニッポン」の、能天気な現実の姿であろうか。とは言え私達には心と体を癒やしてくれる奥武蔵と秩父がある。今年も元氣よく存分に歩きましょう。小泉会長の御母堂が昨年末に御逝去されました。慎んで御冥福をお祈り申し上げます。(会長に代わり、巻頭文を代行させて頂きました。)

目次 第463号 令和8年1月

奥武蔵は心のオアシス	加藤 恒彦	表2
鐘撞堂山点描 その6	野口 実	1
円良田湖余話	中塚 智恵美	5
マダニ騒動	坂口 由加里	6
内陸に進出したイソヒヨドリ	小泉 重光	7
二子山に兵の沢眚を探る	小泉 重光	7
リウガイ山から中藤尾根	小泉 重光	10
鳩ノ巣溪谷から城山	吉田 美知子	11
長瀬秋の七草寺巡り	星野 克典	12
棒ノ折山から仙岳尾根	中塚 智恵美	13
大前山から破風山	高橋 澄夫	14
大高取山	岡野 守	15
細窪山から安戸城跡	吉田 美知子	15
宝登山	岡野 守	16
10月の山行集会	岡野 守	16
「読図山行・戸板坂から下り藤峠の尾根」	湊 祐二郎	17
鎌倉アルプスから衣張山	岡野 守	18
吹上山	湊 祐二郎	18
25年度 河田賞	21
25年度 山行賞	21
山行計画	会務報告	24
新年集案内	奥武蔵情報	25

奥武蔵 第 463 号
令和 8 年 1 月 1 日発行

印刷所	編集者	〒175-0092 東京都板橋区赤塚 7-18-7	発行所	発行者
株 又 一 べ ル 社	成 川 茂 雄	加 藤 恒 彦	小 泉 重 光	奥武蔵研究会 小 泉 重 光